

いきいき
菜園
さいえんせいかつ
生活

農園員の指導

「カリフラワーの栽培」

カロチンやビタミンCが豊富に含まれており、茹でた際のビタミンCの損失も他の野菜に比べて低く、風邪などの感染症予防に効果があるのが特徴のカリフラワーを紹介します。



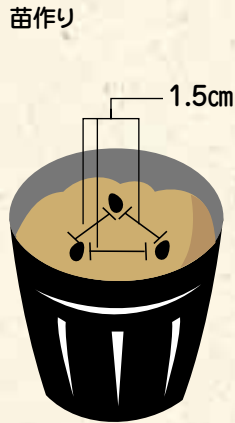
企画営業課
芦田 慎哉

● 苗作り

ポリポット（7・5センチ）に園芸用の培土、または種まき用培土を入れ、水をしっかりと与えて土に水を十分馴染ませます。馴染んだのを確認した後、種子3粒を1・5センチ間隔で三角形になるようにまきます。

本葉1・5〜2枚の頃に生育の良い苗を残して間引き、植え付け時期が近づいてきたら、徐々にかん水量を減らし硬い苗に仕上げます。

は種後1か月を目安に、本葉4〜5枚になれば定植苗の完成です。これより遅れると、苗が老化（根巻き）し、定植後の活着や生育が遅れるなどの悪影響を及ぼしますので、若苗定植を心掛きましょう。



● 畑の準備と元肥

カリフラワーは根が深く伸びることから、湿害の影響を受けやすい作物です。排水良好なほ場を選定し、なるべく高い畦を立てましょう。

定植の2週間前に10平方メートル当

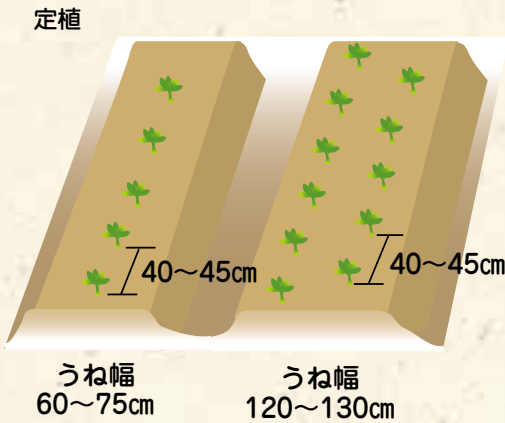
たり（幅1メートル×長さ10メートル）、

堆肥20キロ、BMよりりん600グラム、苦土石灰1キロを施用し出来るだけ深く耕します。その後、畝たて時に化成肥料1キロを目安として施用します。

● 定植

定植の深さは、根鉢がわずかに隠れる程度の深さとしします。ただし、乾燥期の定植では根鉢からの水分の蒸発を抑えるため、若干の深植えが良いでしょう。なお、双葉が見える程度の深さとしします。

うね幅を60〜75センチとした場合は株間40〜45センチの1条植えとしします。また、うね幅を120〜130センチとした場合は、株間40〜45センチの2条千鳥植えとしします。



● 追肥

大きく立派なカリフラワーを栽培するには、初期〜花芽分化開始までの生育を旺盛に保ち、外葉の生育を良くすることが重要となります。そのためには、第1回目の追肥を定植の7〜10日後に行い、第2回目は第1回目の追肥後14日前後に行います。低温期の生育となる場合は、生育期間が長くなることから、肥切れすることが無いようにしてください。

● 中耕、除草、土寄せ

追肥と同時に行います。

● 収穫

花蕾が15センチほどになれば収穫適期です。

● 虫害対策

カリフラワーは、ブロッコリーやキヤベツと同じ仲間のアブラナ科であり、コナガ・アオムシ等が大敵です。生育中は薬剤を散布することが必要となりますが、登録内容や使用方法には十分注意のうえ散布してください。